

土木と市民社会をつなぐ事業研究会報告（その3）

第5回研究会において第6回研究会からはブレインストーミングの結果を受けて「インフラメンテ」、「災害対応」、「地球環境・エネルギー問題・廃棄物対応」、「中央と地方との格差対応」、「国や地域の将来ビジョン」を社会的課題として毎研究会で一つずつ取り上げてこれらの課題をCSV（注釈）の視点で探って行くこととしました。CNCP 通信（Vol174）では第6回研究会にお

いて取り上げました「インフラメンテ」について報告しましたが、CNCP 通信（Vol178）では報告（その3）として第7回研究会において取り上げた「災害対応への貢献」の報告です。事前にメンバーから提出頂いたメモは下記の7件でした。なお、CSVの視点とは①CSV活動領域 ②社会的価値提案モデル ③収益モデル ④取り組みの連携・協働の4つの切り口です。

	仮題	提案者
①	災害復旧・復興支援事業	岩崎 肇（熊谷組）
②	地域防災の協働・代行事業	酒井喜市郎（鉄建建設）
③	防災インフラ見学・学習事業	加古 慎（鉄建建設）
④	伊豆諸島・防災支援事業	松田 和繁（元熊谷組）
⑤	地域防災・復旧・復興支援事業	田中 努（CNCP）
⑥	DCM 地域づくり支援事業	辻田 満（CNCP）
⑦	ゼネコン主導型・防災支援事業	山本 卓朗（CNCP）

出されたメモの分析・評価を行った結果、下記の4つのプロットモデルに整理されました。

- 事業モデルA；地域防災の支援事業
- 事業モデルB；大規模震災へのDCM支援事業
- 事業モデルC；避難誘導へのCSV商品開発事業
- 事業モデルD；世界の大規模森林火災への防災事業

本来ならばここでA～Dの4つのプロットモデルについてそれぞれ更に具体の事業としての組み立ての検討に入るべきところだとは思いますがここで一旦その作業は留めておいて次の課題の検討に入ります。そして前述した5つの全ての課題が一巡した段階で、更に各課題に対する事業化への取り組みを研究します。次

回の第8回研究会のテーマは「新事業への貢献」とします。主として①地球環境②エネルギー③廃棄物処理を取り上げます。なお、第7回研究会からメンバーに佐藤工業が加わり

ゼネコンメンバーは熊谷組、鉄建建設、西松建設、前田建設工業、奥村組、佐藤工業の6社となりました。

注釈：共通価値の創造（CSV）とは社会的課題を工夫のある事業で解決を図ると共に合わせて企業価値の向上を図る事業を称します。